

令和4年度座談会「町長と語ろうまちづくり」(清水地区)

開催日時	令和4年11月1日(火)午後7時から午後8時45分
場所	清水ふれあいセンター
町民参加者	25人(50代2人、60代以上23人)
町出席者	町長、教育長、参事兼企画総務課長、地域防災課長、農林課長、新東名対策室長、上下水道課長、事務局3人

出席者からの主な意見や提案

《テーマ：特に定めない》

- スマートインターチェンジの完成は、清水地区だけでなく山北町にとっても大きな好機であると考えている。地元の有志で平成29年に研究会を立ち上げ、令和3年9月に清水地区地域経営基本方針を町長に提出させていただいた。先んじて町では令和2年4月6日に「(仮称)山北スマートインターチェンジ周辺土地利用構想」を策定し、その後、令和4年4月に町の若手職員で構成されたプロジェクトチームによるプランが公表されたが、先ほど申したとおり地元から基本方針を提出したのが令和3年の9月である。事前に地域から意見を出していたのだから、プロジェクトチームと一緒に検討するなどしてもらえなかったことが残念である。また、清水振興協議会の下部組織である「あり方研究会」でビジョンや目的を示したが全くプロジェクトチームの構想にない。プロジェクトチームが最終的に提案されたものは、確かに具体的な案となっているが、それよりもインターチェンジから来る車の流入の問題や清水橋交差点や道路などのインフラ整備について、町から県や国交省に確認していただきたい。特に清水橋交差点について、平日も混んでおり土日などは山北方面には出れない状況となっているので、清水橋の改修についても提案していただきたい。いずれにせよ、次世代に清水地区が生き残るためにはどうしたらよいかということをも町としても検討していただきたいと考えている。
- (仮称)山北スマートインターチェンジ周辺整備について「道の駅山北の充実」、「河内川ふれあいビレッジの整備」とあるが具体的な説明をお願いしたい。河内川ふれあいビレッジについては、2度も被災しているのだから、川の改修等を進めていただきたい。
- 現在の道の駅の場所について駐車台数が20台のみであることから、道の駅の改修を進めるより、別の場所に広い道の駅を作った方が観光バスなども停めることができるようになり、便利になると思うがいかがか。

- 全国的に人口が減少している。山北町でも人口が令和2年度に1万人を切り、2年間で400人近く減少している。さらに心配しているのは新東名高速道路の関係で山北町に住民票を移している人が何人かいるが、工事が終わると転出することである。これは町としても大きな問題であることから、今も町としていろいろ取り組んでいることは承知しているが、これらについて実効性があるかを検証し、新しい手を打つということを常に考えていただきたい。
- これから人口が減少していくのは避けられないが、地域の住民が住み続けることができるよう地域の町道や水道のインフラ整備をしっかりとやっていただき維持していただきたい。また、人口減少を止めるのは難しいと思うが、減少するスピードを遅くすることはできると思うので、しっかり取り組んでいただきたい。
- 人口減少の一番の原因となっているのは勤め先がなくお金を稼ぐところがないことである。オアシス公園の整備について、現在の計画を見ると売店などが1つもなく、これでは地域にお金が落ちない。例えば足柄茶や地域を代表するようなものを販売するところがあってもいいと思う。そうすれば、地域の人が働く場所の創出にもなると思う。
- スマートインターチェンジの整備について、清水のあり方研究会の提案について町、県など関係機関とタイアップしていろんなアイデアを出していくべきではないか。山市場では、60年前に設置した簡易水道を使っている。補修費は年間20~30万円ということで自治会負担となっている。町で一度現状を確認していただきたい。新東名高速道路の工事の進捗状況について、高松山のトンネルの工事が遅れていることが理由にあるということだが、トンネル以外の工事も遅れているように感じる。実際の工事の進捗状況はどうなのか。